

ナラ枯れの被害判定方法

1 はじめに

東北地方の「ナラ枯れ」被害は、これまで山形県、福島県、秋田県の3県で被害が確認されていましたが、平成21年9月、宮城県（大崎市）でも初めて被害が確認されました。

奥羽山脈の太平洋側に被害が拡大したことから、岩手県への侵入が懸念されます。

被害の拡大を防ぐには、被害木を早期に発見し、適切な防除対策を講ずる必要がありますので、本稿では、被害探索を効果的に進めるために「ナラ枯れ」被害の特徴について解説します。

2 被害木の特徴(発見のポイント)

(1) 被害を受けやすい森林・樹種

広葉樹二次林、特にミズナラ大径木の多い森林で、東北地方ではミズナラ、コナラ、カシワ、クリ等に枯死被害が発生します（枯死はミズナラに多い）。

東北の被害発生状況を見ると、被害は主に標高500m未満で発生、500～800mで稀、それ以上の標高域ではほとんど発生していません。

(2) 葉枯れ(写真2)

枯死被害木は、7月中旬から10月にかけて葉が枯れるなど遠景からも判別できるようになります。

(3) 幹の木くず(フラス)と穿入口(写真3・4)

細かな木くずが幹や根元に散乱します。また、幹の下部（主に2m以下）に2mm程度の丸い穴（穿入孔）が多数見られます。

木くずはカシノナガキクイムシが木に坑道を作るために排出されたもので、被害発見の重要な手がかりとなります。

(4) 成虫(写真1)

上記(1)(2)の症状の樹幹上でカシノナガキクイムシ成虫が見つかることがあります。また、穿入孔付近をナタ等で削るなどしても捕獲できることがあり、これらを持ち帰って種を判別することができれば被害特定の手がかりとなります。

(5) 穿入生存木

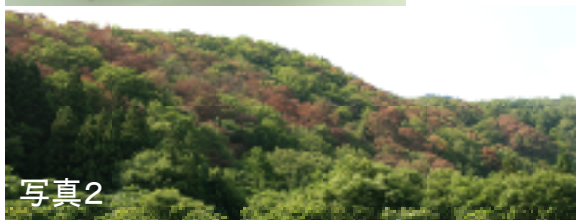
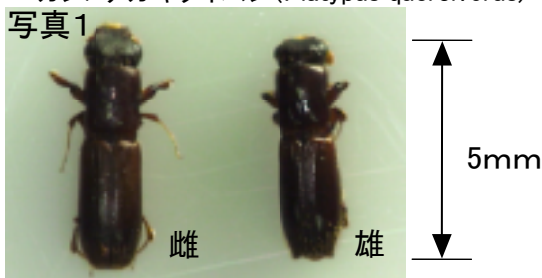
カシノナガキクイムシに穿入されても、中には枯死に至らないものもあります。

葉枯れしない、穿入孔も少ないため目立ちませんが、未被害地域ではカシノナガキクイムシの動向を探る手がかりとなります。

「ナラ枯れ」とは？

カシノナガキクイムシが病原菌であるナラ菌(*Raffaelea quercivora*)を伝播することによって、ナラ類やシイ・カシ類が枯死する樹木の病気で、1990年前後から日本海側の府県を中心に被害が拡大しています。

カシノナガキクイムシ(Platypus quercivorus)



3 おわりに

平成21年9月、宮城県内での初の被害発生、同時期に秋田県では、予測を大幅に超える被害拡大が確認され、両県に隣接する岩手県では、被害侵入の懸念がにわかに高まったと言えます。

今回解説した、「ナラ枯れ」に特徴的な症状を発見した場合は、地方振興局、市町村等の林業関係機関にお知らせいただくようお願いします。

(担当者 研究部主任専門研究員 小澤 洋一)

連絡先

028-3623 岩手県紫波郡矢巾町大字煙山第3地割560番地11

岩手県林業技術センター

ホームページアドレス <http://www.pref.iwate.jp/~hp1017>

TEL019-697-1536

fax 019-697-1410